

## ■総会が開催されました



7月17日の総会(大阪)

第2回総会が7月19日に、大阪市中央区のKKRホテル大阪で開催されました。

総会は58会員中、20社26人が出席して成立。村上会長の開会のあいさつ、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの杉浦勝明理事による来賓祝辞の後、議長に村上会長を選出して、議案審議に移りました。

主な議案は 平成18年度事業報告 同年度決算報告・同監査報告 19年度事業計画案 同年度予算案 関連議案・依頼事項・優良会員表彰。各議案はスムーズに可決されました。

当協議会の18年度の事業計画は次の通りです。

講演会 = 年1回総会終了後に開催する。

説明会 = 年1回肥料取締法改正等に関する説明会を開催する。

研修会 = 随時開催(基本的には説明会の開催日程に合わせて併催)

調査研究会 = 各委員会の活動の活性化を図り、随時開催する。

情報交換会 = 年2回総会 / 講演会及び説明会 / 研修会終了後に開催する。

普及啓蒙 = 啓蒙パンフレット、HPを活用し、会員及び一般への知識啓蒙、情報の発信に取り組む。啓蒙パンフレットの見直しを検討する。啓蒙パンフレットを消費者に積極的に配布する。当協議会の活動をまとめた広報誌を制作し、会員及び会員外に広く配布する。

資料配布 = 監督官庁、関連団体からの資料等の配布と共に、HP上で補完的に配布する。

その他 = 関連団体等との協力やHP上での新会員の募集を継続する。その他必要に応じた案件について随時取り組む。

また、功労者表彰として、元フマキラー(株)園芸用品部部長の杉浦啓泰氏に感謝状が贈呈されました。

総会後の記念講演では、MPSフローラルマーケティング(株)の松島義幸社長に「人にも花にも優しい花き生産について 花卉産業総合認証プログラム・MPSの導入」と題して講演していただきました。

「MPS」とは、農薬、肥料はもちろん、電気、水など、あらゆるエネルギーを出来るだけ使わないようにして、環境に負担の少ない生産方法で生産した花きを認証するものです。オランダ語の「花き産業総合認証プログラム」の頭文字だそうです。

直接対象となる生産者だけでなく花き業界全体が興味を持っているテーマでもあり、皆さん熱心に聴講されていました。



3月22日の研修会(東京)

## パピルス創刊にあたって

農林水産省の家庭園芸に対するご理解とご協力もあり、昭和59年に発足した家庭園芸肥料・用土協議会(当時、家庭園芸肥料協議会)も、既に発足以来23年が経過致しました。当時は、ホームセンターの急成長、花の万博開催の準備も進んでいたことで、消費者の花への関心も深まりつつありました。そのような追い風の中で協議会のスタートとなりました。

現在の当協議会の主な活動は、肥料・用土の品質保全の為に知識と技術の向上、肥料公定規格の改定の説明、質疑応答等、アカデミックというよりやや事務的な内容になっています。消費者に向けての大きなイベント開催といった業界としてのPR活動的な企画も行っておりません。会員各社の費用負担も若干軽減し、農林水産省消費・安全局を窓口として、同業者による任意団体という役割を主としているというのが現状であります。

しかし今、産業界全体の動きの中には、協議会として

も新しい活動を考えてみる必要を感じさせられるものが確かにあります。安心安全という視点での商品開発、また環境問題を視野に入れた活動、新たな市場の発掘など、色々な課題が提起されているように思われます。そこで、当協会としては、もっと会の活動を幅広くPRし、会員数を増やす努力をすること、そして、我々がメーカーだけの組織団体であることを生かし、会員各社がそのメリットを享受できるように会の活動を強化していきたいという願いと期待が生まれたわけです。その願いが今回のパピルス創刊に込められていると言ってもよいでしょう。『パピルス』という紙の原点とも言うべき誌名を選んだのも、業界としてもう一度、自分達の仕事の原点に帰ってみようという願いを込めたものであることを申し上げておきたいと思えます。

家庭園芸肥料・用土協議会会長 村上恭豊

## 村上恭豊会長 あいさつ

### 価格以外の面でも消費者の取り込みを



私ども肥料メーカーは大変な問題を抱えています。リン酸、塩化カリ、尿素など、輸入原料が非常に値上がりしています。ご存知の通り、バイオ燃料、中国などでの穀物需要の増大、円安、フレート運賃の値上などが、大変大きな問題となっていることを先ず

申し上げておかなければなりません。

そんな中で今、私が興味を持っているのは屋上緑化です。また、アグリス成城などの「都市型農園」も注目されているのではないのでしょうか。日経流通の調査では、全体の6割強の方がガーデニング

を実際に「している」或いは「したい」と回答し、2・3年前に比べるとかなり増えてきているそうです。その中で、私が特に注目したのは、ベランダやバルコニーでの需要が増えているということでした。しかし、それでマーケットが拡大しているのかというと、実際はそうではないようで、なかなかうまく取り込めていないような気がします。消費者にとっては、価格は安いに越したことはないのですが、価格以外にも、消費者はもっと違ったものを求めているのではないかと考えています。

そして、業界としてもまだまだ足並みが揃っていないように思えず、その辺のことももう少し考えてみる必要があると思っています。今お話しした家庭菜園がどんどん増えている中で育てる資材である肥料や用土の安全性は重要で、私は当協議会がどのように、「食の安心・安全」に取り組むべきかも考えてみたいと思っています。

## 杉浦勝明理事 祝辞

### 肥料取締法を遵守しつつ、安全な製品の提供を

4月1日づけを持ちまして、従来の肥飼料検査所は農林水産消費技術センター、農薬検査所と統合いたしました。農林水産消費安全技術センター、英語で Food and Agricultural Materials Inspection Center、略して「FAMIC(ファミック)」が発足しました。FAMICは発足後3ヶ月半が経過したわけですが、生産から消費に到る、いわゆるフードチェーンにおける食の安全の、消費者の信頼を確保するために、実質的にサポートする機関です。3法人が同居した、統合のメリットを早期に発揮し、国民の期待に応えられるような積極的な展開を図っていきたくと考えております。今後ともご指導、ご協力をいただければと考えています。肥料関係の業務については、引き続きセンターの肥料安全検査部がすることになります。実は私は専門が獣医で、肥料は専門ではありませんが、さきほど協議会が作成されました「園芸肥料と用土のABC」パンフレットを拝見いたしました。

協議会が品質の高い安全な製品を国民に提供できるよう努力されて活動していると伺いまして、大変敬意を感じました。家庭園芸は豊かで、潤いのある社会を作るうえで不可欠なものと認識しています。肥料業界を見ますと、世界的な一次産業の不振、或いは円安、肥料原料の価格が急上昇しているとも聞きます。今後とも課題はあると思いますが、肥料取締法を遵守しつつ、高品質で安全な製品の提供をしていただければと考えています。その目的が達成できますよう、FAMICとしても応援させて頂きたいと考えています。



# 功労者表彰 杉浦啓泰氏



19年度通常総会内で、協議会活動への長年の功労者として、元フマキラー(株)園芸用品部部長の杉浦啓泰氏が表彰を受けられました。

杉浦氏は84年の協議会設立以来のメンバーで、90年の大阪花博への出展、92年の農林水産省「消費者の部屋」への出展などの担当スタッフとしてご尽力いただきました。その後も全国各地で開催されるジャパンフラワーフェスティバル等のイベントに園芸相談員として参加されたり、配布用のサンプルを提供して頂いたり、対外的な

普及啓蒙活動に熱心な貢献をして頂きました。  
また、対内的には、価格や品質にあまりにも格差のある園芸用土の信頼向上のため、当協議会の会員が自主的に用土袋に共通の書式で成分表示を徹底することにした「用土成分表示事業」にも力を尽くしていただきました。

現在は園芸療法を勉強中で、今後はその知識を活かした地域福祉などにも関わって行きたいと仰っておられましたので、今後も地域の園芸活動のリーダーとして園芸振興に活躍していただけるのではないのでしょうか。  
(事務局)



## 会 員 紹 介

毎回、会員リスト掲載順に紹介していきます

### アイリスオーヤマ株式会社

〒 981-1596  
宮城県角田市小坂上小坂 1 番  
TEL 0224-68-3578 FAX 0224-67-1009  
<http://www.irisohyama.co.jp/>

アイリスオーヤマの事業展開の根本は「ユーザーイン発想」です。技術や設備、従来の慣習といった企業側の論理で発想するのではなく、常に生活者の視点に立って商品開発を行って参りました。その結果ガーデニング初心者でも失敗することが少ない培養土、プランター、手が汚れず巻き取りやすいホースリールなど、市場に存在していなかったオンリーワン商品を数多く開発しております。これからもアイリスオーヤマはソリューション企業、グローバル業態メーカーベンダーとして、果敢な挑戦を続けて参ります。

#### 【天然の陽イオン交換材 天然ゼオライト】

土壤に施した化学肥料や農薬すべてが、植物に吸収されるわけではありません。あまったものは、地下に沈降し汚染の原因となります。天然ゼオライトを土壤に混合することで、化学肥料や農薬を有効に効かせ、汚染も防げます。「環境配慮」が問われる昨今、天然ゼオライトが解決します。

### 東北ゼオライト工業株式会社

〒 018- 3124  
秋田県能代市二ツ井町切石字場の上 3 -31  
TEL 0185-73-4121 FAX 0185-73-3362  
<http://www.shirakami.or.jp/~tozeinco/>

## 肥料 Q & A

### Q 家庭園芸用肥料とは？



### A 趣味目的で使う肥料をいいます。

因みに、農業用肥料とは、販売目的で農作物を作るために使う肥料です。

肥料取締法では、家庭園芸用肥料とは「家庭園芸専用」の表示をしたもので、かつ正味重量が十キログラム以下の肥料をいいます。なお、農業用の化成肥料や配合肥料や指定配合肥料なども、これらの条件を満たせば、家庭園芸用肥料になります。

一方、家庭園芸用複合肥料の公定規格がありますが、家庭園芸用複合肥料とは、公定規格中の定義「熔成複合肥料、化成肥料、配合肥料、成形複合肥料、吸着複合肥料、被覆複合肥料、副産複合肥料、液状複合肥料、熔成汚泥灰複合肥料及び混合汚泥

複合肥料以外の複合肥料であって、かつ「家庭園芸専用」の表示と十キログラム以下のものをいいます。

したがって、家庭園芸用肥料の一部に、家庭園芸用複合肥料があります。

因みに、複合肥料とは、窒素、りん酸、加里のうち二つ以上を含む普通肥料(有機質肥料を除く)をいいます。(事務局)

このコーナーでは、過去に会員の皆様から協議会へ寄せられた、肥料・用土に関する質問の中から、数が多かったもの、重要と思われるものを毎回ご紹介していきます。

## 農水「花き産業振興室」に

農林水産省は8月1日付けで、省内の一部を改組しました。生産局では、野菜課と果樹花き課が統合されて『園芸課』となった他、農業振興課から農業技術の導入や実証に関する部門を切り離し『生産技術課』を新設。また、『大臣官房環境政策課』を『環境バイオマス政策課』と改称し、バイオマス関係の施策を総括します。

これにともない、園芸課(福田豊治課長)の花き担当部門は『花き対策室』から『花き産業振興室』となりました。室長は対策室長だった志村勝也氏です。

振興室内には、花き企画・生産班と花き調査・

流通班が置かれ、花き産業全体と生産、流通、消費など各ステージでの振興策の企画や調査などを進めていきます。スタッフは、室長以下各班の担当者に、専門知識を有した生産専門官1人を加えた10人体制になりました。

7月10日付け人事(敬称略)

消費・安全局農産安全管理課長(消費・安全局総務課食品安全危機管理官)=朝倉健司

8月1日付け人事(敬称略)

環境バイオマス政策課長=西郷正道 生産局生産技術課長=鳩山正仁 同局園芸課長=福田豊治 大臣官房付=海野洋 独立行政法人 勤労者退職金共済機構理事=山崎信介 地方競馬全国協会会長=山田榮司

## 「MPS」について

総会の記念講演で「MPS」に関心を持たれた方が多かったようなので、講演内容からもう少し詳しくご紹介します。

日本のMPSの特徴として、国際認証のマークの他に、日本MPSマークがあり、これを並列表記することで輸入品の認証商品と差別化し、国産であることをアピールすることができるのだそうです。

現在、募集が進められているのは、生産段階の認証で、全ての基本となるMPS-ABC。これに生産者が登録申請して3カ月すると、まず加入していることを示す参加者ロゴマークを鉢のスリーブや、切花の箱などに表示できるようになります。

そして、1年間、MPS本部に農薬や肥料の使用状況などのデータを毎月送ると、そのデータを元にA~Cまで、3段階の評価で認証が下され、MPS-ABCの認証マークを表示することが出来るようになります。更に、この認証は定期的に見直されるため、1度A評価を得ても、その後怠ればランクが下がることも有り得ます。評価は地域の状況などを勘案した相対評価になっているそうです。

また、一般に切花の認証がメインと考えられているようですが、実は販売店まで出荷時のままの姿で運ばれる鉢物の方が、スリーブなどにマークを表示してPRをしやすそうです。

市場や加工業者での取り扱いなど流通段階の認証である「フロリマーク」も、9月から卸売会社等を対象に募集が開始されているそうです。

### 事務局より

第24回総会において、次の役員変更がありました。

副会長 住化タケダ園芸株式会社 柏田雄三氏から宮本一光氏に変更  
理事 レインボー薬品株式会社 大塩裕陸氏から滝口健一氏に変更  
監事 株式会社サカタのタネ 渡辺誠氏から清水俊英氏に変更

平成18年度期末で次の4社が退会されました。

株式会社サンソ(大阪)、有限会社ナーセリーアンドデザイン(神奈川)  
株式会社ダイシバ(岡山)、株式会社グリーン産業(大阪)

家庭園芸肥料・用土協議会は、家庭園芸の安全で健全な振興のために、メーカー企業有志により昭和59年に設立されました。

## 家庭園芸肥料・用土協議会

〒650-0041 神戸市中央区新港町14-1 財団法人日本肥糧検定協会関西支部気付

TEL 078-332-6491 FAX 078-332-6545